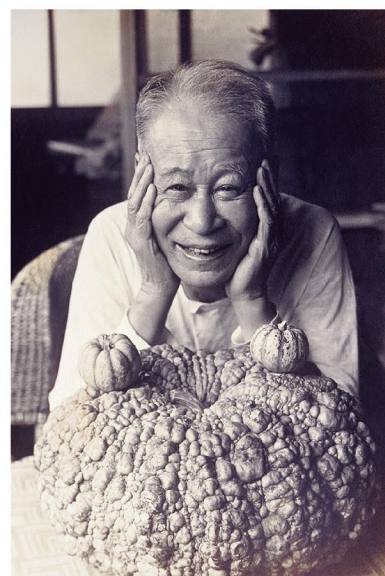


牧野富太郎ってどんな人？



高知県出身の牧野富太郎は日本が世界に誇る植物分類学の第一人者です。自らを「草木の精」と名乗り、一生を通じて植物分類学の研究に打ち込み、新種や新品種など1,500種類以上の植物を命名しました。また日本全国で採集調査を行い、生涯に40万枚とも言われる膨大な数の植物標本を収集、後世に残した蔵書は45,000冊を数えます。植物知識の教育普及活動にも全

国規模で尽力し、地元の植物研究者、愛好家などの育成に努めました。78歳で刊行した『牧野日本植物図鑑』は、これまでの研究の集大成であり専門家から一般の人々まで今なお広く支持されています。

牧野富太郎肖像写真 牧野富太郎植物園(コオロギラン、ムジナモ、ノジギク) 高知県立牧野植物園所蔵

牧野富太郎略年譜

2022
(令和4)年は
生誕
160年

- 1862(文久2)年4月24日
高知県高岡郡佐川町で酒造を営む裕福な商家の一人息子として生まれる。(幼名：成太郎)
- 1868(慶応4)年
父、母、祖父が相次いで亡くなり、祖母に育てられる。(この頃、富太郎と改名)
- 1876(明治9)年
佐川の名教館で高度な教育を受け、後に入学した小学校の授業に飽き足らず、2年で自主退学。
- 1884(明治17)年
東京大学理学部植物学教室を訪ね、研究室への出入りを許され研究に没頭する。
- 1887(明治20)年
『植物学雑誌』の創刊に携わる。
- 1888(明治21)年
壽衛(すえ)と東京根岸に所帯を持つ。この頃、石版印刷技術を習得し、『日本植物志図篇』を自費出版。
- 1889(明治22)年
大久保三郎と日本で初めて新種ヤマトグサに学名を付ける。横倉山でコオロギラン発見。
- 1953(昭和28)年
東京都名誉都民となる。
- 1956(昭和31)年
佐川町名誉町民となる。
- 1957(昭和32)年1月18日
94歳で永眠。東京都谷中の天王寺墓地に埋葬。没後、文化勲章を授与される。

スエコザサ命名秘話

研究に惜しみなくお金をつぎ込む富太郎をあの手この手で工面して献身的に支えたのが妻・壽衛(すえ)でした。学問に私情を挟むことを好まなかった富太郎ですが、誰よりも植物研究の重要性を理解し、思うままにさせてくれた愛妻の激励と内助に感謝し、1927(昭和2)年に仙台で発見した新種の植物をスエコザサと名付け、学名と共に『植物研究雑誌』に発表しました。発表の5日前に壽衛は病のため永眠しましたが、富太郎は墓標に「世の中のあらゆるやなぎやすえ子等」と刻み、東京練馬の自宅の庭に建てて終生大切にしました。



牧野式植物図について

富太郎の植物図は、単なる写生ではなく、複数の個体を観察した上でその植物の典型的な形態を捉えている点、花期や果実期など各生長段階を精密に描写している点が最大の特徴で、『牧野式植物図』とよばれています。緻密で精密な描写、表現力は世界的に高い評価を受けています。描画にあたっては主に根柢筆を用いていますが、自ら加工するなど、道具にもこだわりました。右図)コオロギラン



好物

グルメ

【すき焼き】

「父は牛肉のすき焼が大好きです。やはり牛肉をいただいていたせいで、こんなに長生きをしたのではないかと思います。」(牧野富太郎自叙伝「父の素顔」牧野鶴代より)

【トマト】

西洋酢をかけて食べる。

【コーヒー・紅茶】

コーヒーはブレンドするほどこだわりの好物。

草木の精かも知れん

自叙伝において「私は植物の愛人としてこの世に生まれ来たように感じます。あるいは草木の精かも知れんと自分で自分を疑います。」と述べていた富太郎。植物採集へ出かける際には必ず、シャツに蝶ネクタイ、恋人である植物に会うのだからと、植物への愛と尊敬の気持ちを服装に表していたようです。晩年、病床にあっても植物採集や珍しい植物を見つけた夢などを見て翌朝家族に話していたそうで、家族が富太郎を植物の精ではないかと思うほどでした。

富太郎ゆかりの植物たち



バйкаオウレン '仙台屋' ヨゴグラノキ キシツツジ ヒメキリンソウ ジョウウホトギス ノジギク

練馬区立 牧野記念庭園



アクセス:西武池袋線 大泉学園駅(南口)から徒歩約5分
【東京都練馬区】

富太郎が大正15年から亡くなるまでの約30年を過ごした住居と庭の跡地。園内には、富太郎にゆかりの深い植物を含め300種類以上の植物が生育するほか、富太郎が使っていた書屋が残っています。

東京都立大学 牧野標本館



アクセス:京王相模原線 南大沢駅から徒歩約10分
【東京都八王子市】

富太郎の没後、遺族から寄贈された未整理標本(牧野標本)を元に設立。牧野標本は所蔵点数の約3分の1(約16万点)を占めており、現在では野外で見ることができない絶滅した植物等の貴重な標本を多数含んでいます。

国内の牧野富太郎ゆかりのスポット

会下山小公園



アクセス:神戸市地下鉄 西神・山手線 上沢駅から徒歩約16分
【兵庫県神戸市】

富太郎が経済的に困窮した際に、神戸市の資産家・池長孟氏が資金援助のため植物標本を買い取り、その保管のため開所された「池長植物研究所(牧野植物研究所)」の跡地。地域の方々には「牧野公園」と呼ばれて親しまれている公園です。

小石川植物園



アクセス:都営地下鉄三田線 白山駅A1 出口から徒歩約10分 東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅 出入口1から徒歩約15分
【東京都文京区】

「小石川植物園」の名で親しまれている東京大学大学院理学系研究科附属植物園。富太郎は同大学初代教授の研究室への出入り許可から始まり、出入り差し止めにも合いましたが、のちに助手から講師となり77歳まで務めました。

博覧会のお知らせ

MAKINO EXPO

牧野富太郎のふるさと・高知県。連続テレビ小説「らんまん」の放送を契機として、高知県立牧野植物園や佐川町、越知町を中心に、県全域で観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を開催します。四季折々の草花をはじめ、自然、食、歴史など本県の魅力を存分にぜひ体感ください。

プレ博覧会 令和5年2月4日(土)～令和5年3月19日(日)

博覧会期間 令和5年3月25日(土)～令和6年3月31日(日)

牧野植物園情報

令和5年春、南園に新研究棟が完成予定。研究の見学スペースやキッズラボも登場します。南園の景色が見える眺望抜群のレストランもお楽しみに！



完成予想図

連続テレビ小説を生かした博覧会推進協議会(高知県観光政策課内)
TEL 088-823-9606 <https://kochi-tabi.jp/makino-expo/>



高知県

らんまんの舞台・高知
牧野博士の
新休日
Dr. Makino's New Holiday in KOCHI

牧野富太郎 ゆかりの地 めぐりマップ



牧野富太郎が
連続テレビ小説の
モデルに!!

令和5年度
(2023年度)
前期
連続テレビ小説
「らんまん」(NHK)
放送予定

牧野富太郎 主なゆかりの地

富太郎が詠んだうたとともに

公益財団法人高知県牧野記念財団
特別企画展「牧野富太郎展」2022
「富太郎が歩いた高知」を改題

Field Work in Tosa

自然環境の保全のため、貴重な植物の採集は
しないようお願いします。
高知県の豊かな自然がいつまでも続くよう、
大切な植物を守っていきましょう。

5 大月町



☎0880-62-8133(大月町観光協会)
月光桜へのアクセス/高知西南交通バス
「大月役場前」より徒歩約12分

若き日の富太郎は大月町を訪れ、ソナレノギク等を新種として発表しています。富太郎生誕150年に、富太郎がかつて足摺で見たという幻の「足摺桜」を探そうと、地元の人々がそれらしき白い花を咲かせるヤマザクラを見出しました。この桜は、満月になると満開になるといふ言い伝えから月光桜と呼ばれ、3月下旬頃のライトアップでは、幻想的な姿を目にすることができます。

6 足摺岬



☎0880-82-3155(土佐清水市観光協会)
アクセス/高知西南交通バス「足摺岬」
下車すぐ

二十代の富太郎は、1ヶ月かけてこの一帯の植物を調査してまわり、非常に多くの植物知識を得たといわれています。壮年期、東京にいる富太郎のもとに、この辺りで採集された奇妙な植物の標本が届けられました。研究の結果、富太郎は日本初となる新科と新属を立ちあげて、新種の寄生植物ヤッコソウを発表しました。記載論文には、精巧な牧野式植物図が添えられています。

7 三原村(星ヶ丘公園)



☎0880-46-2111(三原村役場)
アクセス/土佐くろしお鉄道「平田駅」より
車で約10分

若き日の富太郎は三原村を訪れ、今ノ山で採集した標本などを基に現在は絶滅危惧種となっているトサムラサキを新種として発表しました。富太郎が植物図にも描いた絶滅危惧種ヒメノボタンの数少ない自生地を守ろうと、地元の方々による保全活動が実を結び、9月頃には星ヶ丘公園(ヒメノボタンの里)で種子から育てた可憐なヒメノボタンの群生を見ることが出来ます。

8 高知県立牧野植物園 (高知市五台山)



「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士(1862-1957)の業績を顕彰するため、富太郎逝去の翌年1958年4月に高知市の五台山に開園しました。「植物園を造るなら五台山がええ」と富太郎が生前に候補地として提案した場所へ建設されました。園内では、四季折々約3000種類以上の草花をはじめ、温室の熱帯花木や、土佐寒蘭センターではカンランならびに日本伝統園芸植物など多種多様な植物に出会うことができます。牧野富太郎記念館 展示館では、富太郎が描いた植物図や収集した蔵書、写真などから、その生涯や業績を知ることができます。

☎088-882-2601(高知県立牧野植物園) アクセス/MY遊バス「牧野植物園正門前」下車すぐ

9 安芸市 (伊尾木洞)



波の浸食によりできた洞窟で、高さ5mもある岩壁には貝の化石が見られます。ホウビシダ・ホウライシダ・シロヤマゼンマイ等の暖地性シダ植物7種が壁面を覆っており、これらがヶ所に生えていることが珍しいため国の天然記念物に指定されていて、周辺では約50種のシダ植物が見られます。富太郎もこの地を訪れ、シダ植物を採集しています。

☎0887-35-1122(安芸市観光協会)
アクセス/土佐くろしお鉄道「伊尾木」下車・徒歩約7分

10 室戸岬



☎0887-23-1610
(室戸世界ジオパークセンター)
アクセス/高知東部交通バス
「室戸岬」下車すぐ

富太郎は室戸岬周辺で、植物採集や観察会を行いました。この一帯にはアコウをはじめ、富太郎が学名を命名したハマアザミや、シオギクなどが見られ、これらの亜熱帯性樹林および海岸植物群落は国の天然記念物に指定されています。富太郎は著書のなかで、「誰か一山をこの珍樹のアコウ林にして、海南の地に一等の珍名所を造る珍勇者はいないかな」と残しています。



句ふ萬葉の
櫻の佐川
土佐で名高い
花名所

高知の
高知の
高知の
高知の

歌ひはやせや
佐川の櫻
町は一面花の雲

景色なす
五台山には
樹が茂り
青柳の
橋は宛も
虹の様

1 仁淀川町

「仁淀ブルー」で有名な仁淀川の上流部に、ヤマトグサ発見の地である名野川を有しています。ここは、富太郎が幾度となく通い多くの新種を発表した場所。四国カルストの東端に位置する黒滝山ではクロタキカズラが、鳥形山ではトリガタハンショウヅルが富太郎によって新種として発表され、山の名を冠した和名がつけられました。若き富太郎を育んだ、まさに植物の宝庫といえる場所です。

☎0889-35-1333(仁淀川町観光協会)
中津溪谷へのアクセス/
伊野ICから車で約1時間

2 越知町(横倉山周辺)

アカガシの原生林や多くの希少植物が残る、植物の宝庫・横倉山。隣接する佐川町出身だった若き日の富太郎もこの山に魅せられ、足繁く通いました。ジョウロウホトトギスを発見してロシアのマキシモヴィッチ博士が学名を、富太郎が和名を命名したことは有名な話です。その後も、富太郎はヨコグラツクバネをはじめこの山で採集した標本を基に多くの植物を新種として発表しました。横倉山の横には、富太郎が新種記載のためのタイプ標本を採集したヨコグラノキが今も現存しています。

☎0889-26-1060(横倉山自然の森博物館) アクセス/黒岩観光バス「富の前」下車・徒歩約10分

3 佐川町

牧野富太郎の生まれ故郷。生家の裏山にある金峰神社周辺では2月頃に、富太郎が幼少期から親しみ、晩年は故郷を思い起こさせた植物バイカオウレンを見ることが出来ます。また、桜を愛した富太郎は、当時高知になかった「染井吉野」の苗木を東京から佐川町に送りました。この苗をきっかけにたくさんの桜が植えられ、名所として賑わいました。戦争によって一度は失われましたが、その後、地元の方の尽力で桜を復活させ「牧野公園」となり、富太郎の分骨もおこなわれました。今も高知を代表する桜の名所であり、地域の方々が育てた山野草が見られるお花スポットとしても注目されています。

☎0889-20-9500(さかわ観光協会) 牧野公園へのアクセス/JR「佐川」下車・徒歩約8分

4 馬路村(魚梁瀬)

「高知県の県木」である銘木「魚梁瀬杉」。魚梁瀬地区を中心に自生しているスギの通称です。樹高50mに達する大木が群れをなす千本杉は壮観で、日本三大美林の一つとされています。千本橋の大スギは樹齢300年ともいわれ、植物採集や指導のため訪れた富太郎もきっとここで目にしたことでしょう。富太郎も乗った、森林鉄道の遺構も見逃せません。

☎0887-44-2333(馬路村ふるさとセンター
まかいちよつて家) 魚梁瀬へのアクセス/
高知龍馬空港より東に車で約2時間

富太郎エピソード

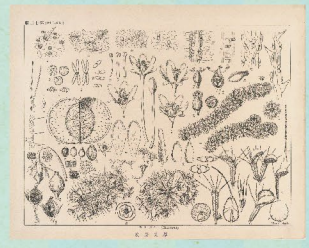
EPISODE.1 ヤマトグサ

日本人による国内初の学名発表
仁淀川町名野川で採集した標本をもとに、1889(明治22)年、27歳の富太郎は東京大学の久保三郎と共に「植物学雑誌」に学名 *Theligonum japonicum*、和名ヤマトグサを発表しました。これは、国内において初めて日本人によって学名が発表された日本の植物分類学史上記念すべき出来事でした。ヤマトグサの記載論文において、富太郎は「極めて珍奇とすべき一新種」と書き記しています。



EPISODE.2 ムジナモ

1890(明治23)年、28歳の富太郎は、東京都江川区小岩井で世界的にも珍しい水生の食虫植物を発見し、ムジナ(=アナグマ)の尾に例えて和名を付けました。誰も見たことのない花が描かれた富太郎の精密な植物図は世界に驚きを与え、日本の牧野富太郎の名が世界に知られるきっかけになりました。ムジナモは現在、絶滅の危機に瀕していて、地元による保護活動が行われている埼玉県羽生市が最後の自生地とされています。



EPISODE.3 ノジギク

1884(明治17)年、富太郎は22歳の時に、現在の仁淀川町で見出し、野路に生えていたことからこの和名をつけましたが、あとになって本州の瀬戸内海沿岸・四国(南東岸を除く)・九州の東海岸の主に海岸沿いに多く自生することが判明しました。県内では、南国市を流れる物部川より東には分布しておらず、住み分けるようにしてシオギクが分布しています。開花期は11月~1月。



EPISODE.4 '仙台屋'

高知市市須賀の商家「仙台屋」にあった桜の園芸品種。淡紅紫色の花は緑が濃くて大変美しく、富太郎が大変気に入っていたことでよく知られています。終の棲家となった東京都練馬区に富太郎も植えていました。牧野植物園には樹齢60年ほどの名木があり、3月下旬~4月上旬の見ごろの時期にはライトアップされた幻想的な姿を見ることが出来ます。

